

山手地域内バス路線補助事業 2 路線が 1 路線に統合された経緯及び事業者との協議内容

都市安全部 道路政策課

◎昨今の路線バス事業者の状況

加速化する少子高齢化や、運転士不足による運行経費の高騰等の社会情勢の影響を受け、交通事業者の約7割が赤字で、路線バスを取り巻く環境は非常に厳しくなっている。このような社会情勢を受け、事業者は地域の利用状況に見合った路線バスに見直しをせざるを得ない状況である。

阪急バス株式会社では、運行収入が大幅に減少する中、人件費の抑制等による運行経費の見直しを行っているが、現状を踏まえ、京阪神の各路線で利用状況に応じた路線ルートや運行時間の見直しを適宜行っている。

宝塚市内路線については、令和4年4月に路線改編が実施された。この改正はコロナ禍前の利用状況に応じた改正となっており、減便に伴い利用者が乗り切れないなどの積み残しが発生しないように調整されている。

◎売布循環線 2 路線の統合の経緯及び事業者との協議内容

山手地域内バス路線の売布循環線についてもやむを得ず、宝塚市内路線と併せて、改編が実施された。効率的な運行を図るため、従前のきよしガ丘系統と泉ガ丘系統の振り子方式の運行から系統を統合し、循環型となった。事業者は従前路線から少しでも利用者の利便性が向上するように、宝塚市立病院や阪急中山観音駅、ダイエー前を経由する現行路線となった。

令和4年4月に実施された山手地域内バス路線の系統統合に係るバス事業者との協議や経緯は以下のとおりである。

令和元年 5 月	阪急バスが運転士の正社員化により、人件費が高騰し、山手地域内バス路線の補助金について市に増額を求めた
令和元年 7 月	効率的な運行を目指すために、地域と意見交換会を実施し、路線の統合を行う方針で一致した
令和元年 12 月	新型コロナウイルス感染症が流行
令和 2 年 4 月	第 1 回緊急事態宣言発令
令和 4 年 2 月	阪急バスより宝塚市南部の路線改編及び山手地域内バス路線の系統統合について概要説明があった
令和 4 年 4 月 30 日	路線改編実施